

本が大好き！白川の子

第3次白川町子どもの読書活動推進計画



[令和3年度 白川町読書推進啓発ポスター最優秀作品]

作：白川中学校 長谷川由奈

令和4年3月
白川町教育委員会

目 次

笑顔あふれるまち「美濃白川」の実現に向けて	P 1
第1章 計画策定にあたって	P 2
第2章 図書館における読書活動の推進	P 7
第3章 家庭における読書活動の推進	P 10
第4章 乳幼児期における読書活動の推進	
	(就園前) P 11
	(保育園) P 12
第5章 小・中学校における読書活動の推進	
	(小学校) P 13
	(中学校) P 14
第6章 読み聞かせボランティアによる読書活動の推進	
	P 15
〈付録〉 読書のまち宣言	P 16
第3次白川町子どもの読書活動推進計画策定委員	P 17

笑顔あふれるまち「美濃白川」の実現に向けて

～第3次計画の策定に当たって～

白川町教育委員会教育長 鈴村雅史

好きな小説が映画になったということできっそく見に行ってみると、自分のイメージとは違うなあという印象を抱いて帰ってくることがあります。さらに、私だけかもしれません、自分の描いたイメージの方が豊かな気がするのです。

白川町の「読書のまち宣言」には、「私たちに知恵を授け、豊かな心を育み、発想力を培い、想像力を磨き、希望を与えてくれるのが読書です」とあります。やはり読書によって脳裏に広がるものは、一つの形となってスクリーンに映し出された映像を見るより豊かなものとなるのでしょう。これは映画を批判しているのではなく、読書と映画では人間の情報処理の仕方が違うからだと思います。

「読書のまち宣言」が発表された時に「第2次白川町子どもの読書活動推進計画」が策定され、数々の取組をしてきました。次のようなものがあります。

- ・学校の読書活動が充実し、その取組を可茂地区の学校図書館審査に応募すると、白川町の学校は「最優秀賞」、「優秀賞」の常連校となりました。
- ・町単独で「読書サミット」を開催し、町図書館「美濃白川楽集館」と町内保育園、小・中学校が連携して発達段階に応じた読書指導がなされてきました。
- ・読み聞かせサークルの活動や町P T A連合会による読書推進啓発ポスターづくりなどにより、読書を身近に感じるよう啓発しています。

一方、IT技術の革新によりパソコンやスマートフォンが普及し、読書離れ、活字離れの大人が多くなっています。子どもにおいては家庭での読書量の減少や、年齢と共に読書量が減少している傾向が出ています。さらに令和2年から、新型コロナウィルス感染症が流行し、読書サミット等の行事も2年連続で中止にせざるを得なかつたことは残念なことです。

この第3次計画は、今一度、読書のよさを実感してもらうことを願って策定しました。「本が大好き！白川の子」というタイトルは、第1次計画策定会議の中で生まれてきたもので、その精神は綿々と引き継がれています。未来永劫、笑顔あふれるまち「美濃白川」の実現を読書に託しています。

第1章 計画策定にあたって

1 策定の趣旨

第3次計画の策定にあたって

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにしていく要素であり、特に子ども世代から読書活動をすることで、人生をより魅力的なものに生きる力を身につけるための良質な手段である。

読書や読み聞かせは、子どもに喜びや感動を与える手段の一つである。読書を重ねることでより視野を広げ、自ら考える習慣を身に付け、豊かな感情や思いやりの心などを育むことが期待できる。

現在の子どもを取り巻く状況は、急速な情報通信技術革新や少子化による保育園や学校の統廃合、生活様式の多様化、新型感染症の流行等刻々と変化を続けている。

そんな状況の中でも読書の取り組みの良い部分は継続しながら変化へ対応し、子どもたちの読書活動がさらに充実し有意義なものになるようする国や県の策定した子ども読書活動推進計画に沿い、町の実情を踏まえ、今後取り組むべき施策を具体的に示し、読書活動の充実に役立てるために向こう5年間を見据え、第3次白川町子どもの読書活動推進計画を策定するものである。

本計画のこれまでの経緯

平成13年12月に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受けて、平成16年3月に最初の「岐阜県子どもの読書活動推進計画」が策定された。白川町では平成21年3月に、これらの基本方針に基づき、施策の基本的な方向と具体的な方策を本計画で明らかにし、町内の子どもたちの読書活動の推進を図ってきた。そして、関係法令や各種計画、状況の変化等を反映し平成26年3月に第2次計画を策定するとともに、子どものみならず町民一人一人の読書への興味・関心をさらに引き出したいと考え「読書のまち宣言」を発表した。

国においては「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、(第3次(平成25年4月)、第4次(平成30年5月))が策定され、岐阜県においても「岐阜県子どもの読書活動推進計画」(第3次(平成27年3月)、第4次(令和2年3月)が策定された。

本計画では、国や県の計画のほか、令和3年3月に策定された白川町の最上位計画である「白川町第6次総合計画」、同じく令和3年9月に策定された「白川町教育振興基本計画」や「白川町教育夢プラン」との整合性も図りながら、子どもの読書活動を推進していく。

計画期間 2022年から2027年の5年間

計画対象 乳幼児から中学生

白川町教育夢プラン

白川町第6次総合計画(2021～2028年度)

『活力』をカタチに みんなの思いが 活きる つながる 広がるまち 白川町



教育から見ためざす町の姿

＜ふるさと愛を育み次世代のまちづくりに活かす＞

めざす子ども像

- ◆求め学び磨く楽しさを知る子
- ◆「共生」を心に刻み歩める子
- ◆ふるさと白川を愛する子



基本方針の三本柱

- ・0歳から15歳までの一貫教育の仕組みと内容の創造
- ・存在感あふれる白川の子どもと保育園・学校の創造
- ・子どもの豊かな成長に貢献できる家庭や地域社会の創造

学校＝鍛えの場

- めあてをもち、継続・反復・活用・挑戦
- ◇「志の芽」と気骨の育成
 - ◇教科の基礎基本の修得
 - ◇人間関係の基礎基本の修得

■師たるを自覚し、自己研鑽する教師

保育園＝芽生えを培う場

- 人や自然に浸る体験、安定感
- ◇豊かな感性・創造性の土台を培う
 - ◇人間関係の基礎基本の習得
 - ◇基本的な生活習慣(心と体)の習得

■親子の成長を支援する保育士

家庭＝やすらぎの場

- 団らん、食事、共同体験、安定感
- ◇愛の体感と自己肯定感の体得
 - ◇人間関係の基礎基本の体得
 - ◇基本的な生活習慣(心と体)の体得

■子育ての歓びを味わい歩む親

保健事業・乳幼児期家庭教育学級

- 子育てに歓びと自信を育む場
- ・親、家族の役割と歓びの喚起
 - ・乳幼児に愛の体感と自己抑制力の育成
 - ・子育てのネットワークの充実

地域＝広がりの場

文化活動、スポーツ活動、子ども会活動などでの人や自然の広がり

- ◇知的好奇心や追求心を磨く
- ◇人間関係づくりの拡大
- ◇育ちの原点「ふるさと」を心に刻む

■子育て応援団を自覚する地域住民

- 次代への還元をめざす生涯学習
- 次代のための豊かなふるさと創り
- 次代につなぐリーダーづくり

2 白川町子どもの読書活動推進についての取り組み実施状況

(1) 「美濃白川読書サミット」の歩み

平成23年度から、『美濃白川読書サミット』を実施している。内容は町立図書館の司書によるブックトーク、小・中学校の読書活動、公民館やPTA連合会の取り組みの発表、サークルによる読み聞かせ、『読書の魅力』について全員参加によるフリートーク等である。第9回目となる令和元年の読書サミット（令和元年8月1日）には、町内の保育園児から大人をはじめ、町外からの参観者も多数あり、参加者は150名を超えた。町内の参加者の人数が増加するだけでなく、年齢層の広がりや町外参加者の増加からも、「読書のまち 美濃白川」を象徴する8月の恒例の行事となったといえる。

令和元年度の読書サミットでは、町民の有志による「朗読劇」から始まり、町内の小中学校による「我が校の図書館自慢」、「ビブリオトーク」等、子どもたちが中心となって読書の魅力について発信した。また、「わたしのおすすめの一冊」をテーマにおこなったフリートークでは、様々な年齢層が混じった小グループをつくり、読書の魅力について熱く語り合った。子どもと大人が「読書」を軸としてつながり、思いを語り合い、共有できることのよさを参加者の誰もが実感することができる会となった。

朗読劇



町内有志による朗読劇。迫真に迫る朗読劇は、想像力を高めるとともに、場面設定を考えたり、感情を込めたりする参考になりました。

フリートーク ~私のおすすめの一冊~



読書は年齢層に関係なく、誰もが楽しめるもの。大人が熱く語る姿を見て、子どもたちは本の魅力だけなく、新しいものの見方や考え方を学ぶことができました。

我が校の図書館自慢



それぞれの学校で、児童生徒が中心となって、工夫された図書館を創り上げています。その取組を交流し、お互いに学び合いました。

ビブリオトーク



「小学校の部」「中学校の部」の2部門、計7名がお勧めの本の魅力を語り、会場からの質問にも答え、チャンプ本を競い合いました。

令和2年度、3年度も実施予定で計画を進めてきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、会 자체は中止となっている。一方で、Web会議システムを使い学校間をつなぎ、それぞれの図書館のよさを交流したり、おすすめの本を紹介したりといった本来であれば読書サミットで行う活動が町内各地で展開されている。そのため、この2

年間の児童生徒の読書量は増加傾向にある。

(2) 町内の児童・生徒の実態

白川町では、子どもの誕生時のブックスタートに始まり、生涯を通して読書を身边に感じることができるよう啓発活動や利便性などの読書環境の整備に努めている。

まずは、ブックスタートとして、保健福祉課と連携を図り、乳児（4箇月～6箇月）健診と2歳児健診の2度において本を贈る。また、保護者には読書の重要性や読み聞かせのポイントを伝え、各家庭において育児の傍らに常に本が身近にあるようにしている。

また、町内の各保育園では、「毎日の読み聞かせを通して絵本の好きな子どもに育てる」「家庭での読み聞かせを通して、親と子の絆を深める」という2つの願いを大切にして、保護者への絵本の貸出を行っている。

小・中学校では、朝読書や国語の授業の内容に合わせた並行読書等、児童生徒の主体による図書館経営など各学校で工夫ある活動が行われている。以下にその具体を記す。

○ 町の図書館司書によるブックトーク

毎年度、町の図書館司書による「ブックトーク」を行っている。例えば、10月に「秋」というテーマで、「スポーツ」「食欲」「芸術」など様々な本を紹介してもらう。紹介された本はその後、特設コーナーに展示され、興味をもった児童生徒が本を借りられるようにしている。1月には「自分を見つめる」をテーマにするなど、各月に応じた内容にすることで、読書と日々の生活との関連を実感できるようにしている。



町の図書館司書によるブックトークの様子と、特設コーナーの様子

○ タブレット端末の利用

令和3年度から、児童生徒に1人1台タブレット端末の運用が始まった。読書のみならず、関連図書と動画や音声等を関わらせることで、読書を広める機会につながっていくと考える。また、現在、各教科の学びについて、関連図書から更に様々なことを調べたり、深めたりすることができている。今後は、QRコード等を使用し、図書館に訪れる頻度や、学校全体で興味関心が高まっている事、その本との関連が強い内容など、様々な情報が得られるようになる。また、収集した情報を分析し、結果を発信することで、全校児童生徒の興味関心を喚起し、本を手に取る機会を増やしていく。



タブレットでQRコードを読み取ることで、図書館利用に関する情報やこの本に関連する情報を得られるようにする。

このような幼少期からの取り組みが、子どもたちの読書への意欲を増進させ、豊富な読書量、豊かな感情表現、確かな発信力の向上へとつながっていくと考える。

令和元年4月、小学6年生と中学3年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の質問紙調査で、読書に対する意識調査が行われている。下記の表は子どもたちの読書時間についての本町、岐阜県、全国の調査結果を表したものである。このことは、幼少時期からの読み聞かせにはじまる読書の経験が大きく影響していると考えられる。

① 家や図書館で、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

<小学校>	白川町	岐阜県	全国
2時間以上	11.4%	6.4%	7.0%
1時間以上2時間未満	11.4%	10.8%	11.3%
30分以上1時間未満	29.5%	22.3%	21.5%
全くしない	9.1%	17.1%	18.7%

<中学校>	白川町	岐阜県	全国
2時間以上	9.4%	5.2%	4.8%
1時間以上2時間未満	9.4%	8.1%	7.6%
30分以上1時間未満	11.3%	15.2%	14.6%
全くしない	26.4%	34.5%	34.8%

② 本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館にどれくらい行きますか？

<小学校>	白川町	岐阜県	全国
週に4回以上行く	22.7%	7.9%	3.5%
週に1～3回程度	34.1%	24.2%	13.7%

<中学校>	白川町	岐阜県	全国
週に4回以上行く	1.9%	3.3%	2.1%
週に1～3回程度	24.5%	9.6%	6.2%

③ 読書は好きですか？

<小学校>	白川町	岐阜県	全国
当てはまる	59.1%	45.9%	44.3%

<中学校>	白川町	岐阜県	全国
当てはまる	47.7%	37.9%	38.9%

これらの結果からも、町内の中・小学生の読書に対する意識の高さがうかがわれる。一方で、年齢が上がるにつれて読書量や図書館利用率は、減少傾向にあるといえる。

第2章 図書館における読書活動の推進

(1) 町立図書館（美濃白川楽集館）

＜役割＞

- ・子どもたちが本に親しみ、読書の楽しさを味わい豊かな心づくりにつなげる場所である。
- ・子どもたちが好きな本や必要な本と出会い、知識や見聞を広げたり深めたりし、将来の生き方にもつなげる場所である。
- ・保護者にとっては、自分の子どもに与えたい本を選択したり、子どもの読書について相談したりできる場所である。

＜現状と課題＞

- ・町の人口減少に伴い、利用する子どもたちも少なくなっている現状の中で日常的に読書に親しむ子どもたちの育成のため、幼少期の読書活動を一層重視し、親子で図書館を利用する事業を工夫していく。
- ・本町は地域が大変広く、徒歩や自転車などで図書館を利用できる子どもは限られている。学校の教育活動やPTA活動での図書館利用の位置づけ、学校支援職員による読書推進、各地区のふれあいセンターでの図書の利用等、誰でも、どこでも、いつでも楽集館の図書を利用できるように、各機関と連携しながら協力体制を充実していく。
- ・小中学校への支援について、子どもたちの読書の量的、質的向上を目指し、ICTを活用した利用指導や学習と関連付けたブックトークなどが位置づいている。小規模校という特性を生かした支援の在り方についても検討していく。
- ・町や保育園主催の乳幼児関連事業、保育園や学校の家庭教育学級などへの支援を通して、特に若い保護者への支援を行ってきている。
- ・インターネット動画やゲームが広まる中、絵本に親しむ習慣づくりを推進するために一層計画的、積極的な啓発を進めていく。



＜施策＞

第1次推進計画の策定以来、以下に掲げる主な施策に取り組み、その成果を実感しつつあるが、更に工夫改善しながら一層充実させていくこととする。特に質の面での充実を図るため、関係機関との連携を密にして具体的・計画的に推進する。

- ① 読書学習活動に関わる子どもや保護者のニーズや諸情報の把握
 - ・絵本や児童書、推薦図書や課題図書など蔵書の充実

- ・わかりやすく利用しやすい環境づくり
- ・子どもの読書に関わる保護者への相談の実施充実

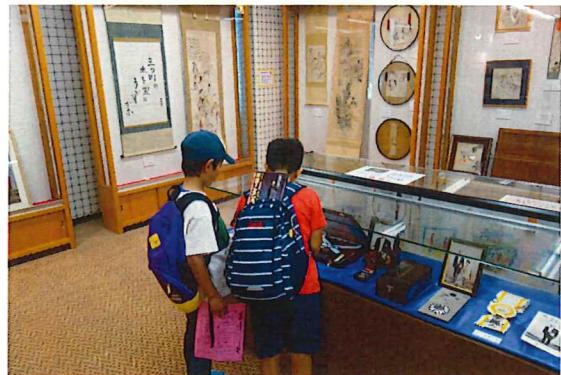
② 利用の促進

- ・楽集館だよりや新着本案内、諸行事や機会をとらえてのPRの工夫
- ・楽集館の利用と貸出促進に関わる学校や保育園への依頼
- ・子ども読書週間、ワークショップ、読み聞かせ会などの工夫、及び充実
- ・児童生徒や学齢期前の子どもの図書カード取得の促進



③ 連携と支援の一層の充実

- ・ふれあいセンター図書室との連携支援
相互の情報交流による利用者のニーズの把握と対応
- ・保健福祉課や子育て支援係との連携支援
乳幼児健診や乳幼児期家庭教育学級における保護者への啓発
- ・保育園への訪問による連携支援
環境づくりや読み聞かせ会の実施、保護者への読書活動の啓発
- ・学校への訪問による連携支援
図書館環境の充実及び読書活動の推進と啓発
学習に関連した図書（学校支援図書）の活用と促進
ICTを活用した図書館利用指導



(2) ふれあいセンターの図書室

<役割>

- ・各ふれあいセンターには、図書室を設けて楽集館の本を置いて誰でも、どこでも、いつでも気軽に読書に親しんだり学んだりできることを目指し、より一層の読書活動推進を図る遠隔地サービスの拠点としている。

<現状と課題>

- ・それぞれの地域の育成会行事や子ども向け講座などの会場ともなり、子どもたちが集まってくる機会が多い。
- ・子育て支援に関わる事業の会場ともなるので、乳幼児やその保護者への働きかけもでき、子どもの読書活動を推進していく上で大切な場でもある。毎月1回楽集館司書と協力して、本の入れ替えや配置、環境づくりやPRを工夫することで、図書室全体として利用者数や貸出冊数ともに増加傾向にある。
- ・地域の読書活動の拠点として、楽集館や各機関・団体と連携し、協力も得て、子どもや保護者への働きかけを一層進めていかねばならない。

<施策>

- ・子どもや保護者のニーズにも応えた本の入れ替えを行う。
- ・本の配置やPRコーナーなどを工夫し、親しみやすい環境をつくる。
- ・楽集館本（新刊含む）の貸出返却業務を一層推進する。
- ・開催諸行事や事業を活用し、お話し会などの開催やPR・啓発を行う。

第3章 家庭における読書活動の推進

＜役割＞

- ・保護者が率先して読書に親しむことに努め、子どもの読書への興味関心を引き出し、家庭内での読書環境を整える。
- ・乳幼児期のブックスタートから、絵本の読み聞かせや昔ばなしの語りをするなど、興味関心を持続させ読書習慣を形成する。
- ・親子で読み聞かせ会などに積極的に参加し、読書のきっかけづくりとして興味を持たせる。
- ・子どもと一緒に楽集館やふれあいセンター図書室を利用し、本のある空間に親しみを持たせ、その活用法について考え・体験する。
- ・子どもが学校の図書館や楽集館等から借りてきた本を通して、親子が同じ情感を共有する機会をもつ。

＜現状と課題＞

- ・親の読書への興味関心や読書力に個人差が大きい。
- ・子育て世代の楽集館登録者数は横ばいで、読書活動は維持されている。
- ・読書活動が多くの在宅型家庭教育学級の取り組みや一家庭一実践の実践項目として積極的に取り入れられている。
- ・ゲーム機やスマートフォン等によるインターネットの視聴時間が急速に増加しているため、子どものメディアリテラシーと生活習慣の確立を促すため、読書活動と関連させた活動が保育園・小中学校が連携し同時期に展開されている。

＜施策＞

- ・乳幼児健診、乳幼児家庭教育学級、保育園、小中学校、PTA、図書館等さまざまな年代の活動や場所で状況に合わせた啓発活動を行い、読書の価値や与える影響について考える機会を創出する。
- ・保育園、学校、PTAや家庭教育学級等が相互に連携を図り、以下の3点を重点に啓発をする。
 - ☆ 家庭での読書習慣の確立
 - ☆ 子どもの身近に本のある家庭環境づくり
 - ☆ テレビやゲーム、インターネット等の節度のない利用を防ぐための各家庭における約束づくり

第4章 乳幼児期における読書活動の推進

(1) 就園前

＜役割＞

- ・読み聞かせを通して、子どもが大人の愛情を感じ、親子の絆を深める。
- ・妊婦を含めた保護者に、読み聞かせの喜びや楽しさ、大切さを伝え、発達段階に応じた絵本との出会いを支援する。

＜現状と課題＞

- ・テレビ、パソコン、携帯電話等が普及し、読書離れ、活字離れの保護者が多くなり、メディアに子守りをさせるなど、絵本に親しむ環境ができていない家庭もある。
- ・読書に関心のある保護者は、子育て支援センターの絵本コーナーで絵本を借りたり、毎月「絵本のひろば」と題し、保護者向け、子ども向けの読み聞かせにも積極的に参加している。

＜施策＞

- ・まざーず・すぐーる（妊婦学級・両親学級）において絵本の魅力を紹介し、お父さんお母さんの心地良い言葉を子どもに届けるために読み聞かせの実践を行う。
- ・乳幼児健診の会場において、ブックスタートを行い、早い時期に絵本に親しむきっかけ作りをし、家庭での読み聞かせを推進する。
- ・子育て支援センター・乳幼児学級などで、絵本の選び方や読み聞かせの体験を通して、絵本に触れる機会を増やしていく。



[子育て支援センター・乳幼児学級での読み聞かせ]

(2) 保育園

<役割>

- ・毎日の読み聞かせを通して、絵本の好きな子どもに育てる。
- ・保護者に絵本の良さを伝え、家庭での読み聞かせを通して親子の絆を深める。
- ・子どもが絵本に親しめる環境づくりをする。



[保育室の絵本の展示の様子]

<現状と課題>

- ・年齢や発達、子どもの実態に合わせて、毎日読み聞かせを行っている。
- ・すべての園でボランティアによる読み聞かせが行われている。
- ・町図書館の司書の派遣により、読み聞かせや絵本の管理など、環境が整えられている。



[毎日の読み聞かせより]



- ・親子で読み聞かせができるよう、週に1回絵本の貸出をしているが、読んでもらわないで返す子どももいる。
- ・保護者の読み聞かせに対する関心度は高まってきたが、中には実践に移せずテレビやゲームなどメディアの時間が長い子もある。

<施策>

- ・親子の読み聞かせの楽しさが体験できるよう、参観日や家庭教育学級などで読み聞かせをする機会を設ける。
- ・絵本の読み聞かせの大切さや楽しみ等について学ぶ機会を設ける。
- ・小学校や中学校との連携を図りながら、読書の習慣を定着させる。

第5章 小・中学校における読書活動の推進

(1) 小学校

＜役割＞

- ・本を読むことの楽しさを味わわせるとともに、絵本から児童文学へステップアップできるよう指導する。
- ・いろいろな本との出会いの場を、日常もしくは意図的にもつことで、さまざまな分類の本があることを知り、更に本のよさや便利さを味わわせる。
- ・豊かな語彙力・表現力・読み解力とともに、生き方を学ぶことにつながる読書活動を指導する。
- ・調べ学習に本を利用できる力を付ける。
- ・学校図書館や本の利用の仕方を知り、身に付けさせる。

＜現状と課題＞

- ・朝の会に読書の時間を設定したり、図書館祭りで読書を勧めたりするなど、本に親しむ活動の工夫が定着してきた。
- ・図書館主任と図書館司書の連携により図書館活動が充実してきた。こうした取組の結果、図書館を利用する児童が増えた。
- ・与えられた本や紹介された本は進んで読もうとするが、自分から選書して読む力に弱さがみられる。
- ・調べ学習においては、インターネットの情報を優先する傾向がある。

＜施策＞

- ・保護者への啓発を行い、親子読書、家族読書の実施など家庭との連携を大切にしていく。
- ・幼児期の「聞く読書」から、「読む読書」への移行を大切に、発達段階に応じた読書指導を進めていく。(絵本から徐々に長編文学等へ)
- ・学校図書館の環境として、児童を引き寄せる空間作りの工夫を継続していく。
- ・児童会活動における児童による啓発活動をより充実させていく。
- ・読書指導を通して児童一人一人に適書を薦める。
- ・町の図書館『美濃白川楽集館』や県の図書館との連携を大切にしていく。
(楽集館司書と各学校との職員同士の連携・県図書のセット文庫の利用等)
- ・各教科に関連した調べ学習のコーナーの充実を図り、利用指導を進めていく。
低学年…読み聞かせ等で読書への興味を起こさせたり、文学以外の本の存在を知ったりする。
中学年…図書館の利用方法を学び、読書案内等を通して積極的に利用する態度を養う。
高学年…図書館やインターネット利用の知識等を身に付けさせ、本や資料を選ぶ力を養う。

(2) 中学校

＜役割＞

- ・読書の楽しさとともに、その価値を実感し、読書に対する意欲を育てる。
- ・調べ学習の活用能力を高める。
- ・文学作品など、より質の高い作品に親しむように指導する。
- ・読書により、将来を見据えた自己の生き方を見つめる力や耐性を育てる。

＜現状と課題＞

- ・朝読書の設定、生徒会活動による読書の推進活動等を通して、読書に親しむ活動が充実し、図書館の本の貸出冊数が年々増加している。しかし、家庭における生徒の読書量は多いとは言えない。
- ・読書量の個人差は依然広がっており、年齢が上がるにつれ、読書をまったくしない生徒の割合が高くなる。
- ・各教科における調べ学習において、インターネットを活用することが多くなり、図書館等を活用する頻度は減少している。
- ・活字中心の本より、漫画を読む生徒が多い。

＜施策＞

- ・学校生活の中で、読書に親しむ環境・姿勢づくりをするとともに、読書をする時間を確保することを継続していく。
- ・生徒会活動における生徒主体の読書の啓発活動をさらに充実させる。
- ・P T A活動等を通して家庭との連携をとり、保護者への啓発をしていく。
- ・各教科で図書館利用の機会を設けるとともに、調べ学習が行いやすいように教科別コーナーを設置し、調べ学習に必要な蔵書を計画的に増やす。
- ・読書指導を通して生徒一人一人に適書を薦める。（より質の高い本へと導く）
- ・情報センターとして機能するような図書館経営を充実する。
- ・町の図書館『美濃白川楽集館』や県の図書館との連携を大切にしていく。
(図書館司書と各学校との職員同士の連携・県図書のセット文庫の利用等)

第6章 読み聞かせボランティアによる読書活動の推進

<役割>

- ・読み聞かせボランティアを通して「本が好き」という子どもを増やし、心豊かに成長していくことを願い、地域の子育て応援団として活動する。
- ・子どもだけでなく大人も対象に、いろいろな機会に積極的に働きかけ、本との出会いを広げる一助として活動する。

<現状と課題>

- ・読み聞かせボランティアは20年ほど続き、活発な働きかけを通して広く町民に浸透し、「読書の町 白川町」につながってきた。現在、町内保育園、小学校のほぼすべてにおいて「読み聞かせ」を実施している。
- ・毎年開催される「講演会」は、町とPTA連合会との支援により、これまででも著名な絵本作家を数多く招くことができ、常に盛況である。今後も本会の特色ある活動として継続して取り組んでいく。
- ・各サークルの構成員の減少とともに、読み聞かせ会を脱会するサークルもあるがPTAが引き継いで読み聞かせを行っている。講演会の開催には、PTA連合会の協力が必要であり、現状を踏まえながらも、継続可能な連携体制の構築をしていく。

<施策>

- ・すべての子どもたちが日常的に本に親しみ、本との出会いを一層広げていけるように、町内すべての保育園・小学校で「読み聞かせ」を実施する。
- ・絵本作家自身の言葉で語られる本のよさを知ることで、子どもから大人までが、本の楽しさや面白さを一層味わうことができる。絵本や児童書への理解を深め、親子で読書に親しむことを更に広げていけるように、講演会の開催を「白川町読み聞かせ会」の主な活動とする。
- ・講演会の開催について、白川町読み聞かせ会が主催し、サークル代表者や各園の保護者会、白川町PTA連合会と協力し円滑な運営が図られるように協力する。
- ・「白川町読み聞かせ会」の本部役員（代表・相談役2名・庶務1名）は、「楽集館読み聞かせ会」から選出する。

読み聞かせボランティアの団体と活動

白川町で活動している読み聞かせの団体	
・楽集館読み聞かせ会	・にこにこ PEACE（白川保）
・ぐりとぐら（白川北保）	・はっぴーすまいる（蘇原保）
・ひなたぼっこ（黒川保）	・ボランティア有志（佐見保）
・かくれんぼ（光の子保）	・はらぺこあおむし（白川小）
・蘇原小学校 PTA	・黒川小学校 PTA ・佐見小学校 PTA



各園・各校等での 読み聞かせ
白川町読み聞かせ会 「講演会」

読書のまち宣言

私たちは、緑豊かな美濃白川に生まれ、この地の自然や人々、そして、歴史を愛し、先人から受け継いできた伝統や文化を大切にして、今を生きてています。

しかし、人と人との絆、心の豊かさが薄れゆき、未来を生き抜くために解決しなければならない問題が山積している、それが今の時代です。そんな時代にあつても、私たちに知恵を授け、豊かな心を育み、発想力を培い、想像力を磨き、希望を与えてくれるのが読書です。

五十年後、百年後、未来永劫、笑顔の絶えない住み良いまち、美濃白川の実現は町民誰もの願いです。

私たちはこの願いを読書に託します。

私たち白川町民は、読書を通して、

— 家族や親子の心の絆を深めます。

— 自らの感性を磨き、賢い自分づくりに努めます。

— 先人の教えから学び、自らの生き方を見つめます。

— 郷土の歴史や自然を学び、ふるさとへの誇りと愛情を育みます。

— 希望を語り、将来の夢を育みます。

ここに白川町は「読書のまち」を宣言します。

平成二十六年三月

白川町教育委員会

第3次白川町子どもの読書活動推進計画策定委員

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	中田 峰司	学校長代表（蘇原小学校長）
副委員長	井戸 さえ子	美濃白川楽集館（館長）
委 員	今井 芳美	教育委員会（子育て支援係）
委 員	藤井 龍子	保育園代表（黒川保育園長）
委 員	鶴見 英彦	教頭会代表（白川中学校）
委 員	富多 利彦	公民館代表（中央公民館）
委 員	松ヶ崎 代利華	読み聞かせ会代表
委 員	小嶋 大介	教育委員会（教育主幹）
事 務 局	安江 健太郎	教育委員会（生涯学習係）